

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01953

研究課題名(和文) 前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開

研究課題名(英文) The mechanism and its developmenet of monetary and circulative system in the Western part of Eurasia in pre-modern times

研究代表者

鶴島 博和 (Tsurushima, Hirokazu)

熊本大学・大学院教育学研究科・名誉教授

研究者番号：20188642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は前近代における西ユーラシアを時空間の対象として、貨幣の製造と流通のシステムの構造と展開を解明することを基本的な研究課題とした。「権力」を支え「富」の主要な形態であると同時に価値尺度であった「地域世界」の血液ともいべき貨幣が、(1)何を素材として、(2)どのように製造され、(3)受容され、(4)流通しそして(5)その生涯を終えて次に継承されたのかという「貨幣の生涯」をブリテン、バルト海域、地中海域というヨーロッパ世界の周辺部における貨幣の製造と流通のシステムに光を当てることのできた。ヨーロッパの中核ともいべきフランク世界とそれとの関連の解明が課題として残った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで日本の西洋史学では、前近代時代の貨幣史研究の欠落が指摘されてきた。今回の研究は、毎年、国際研究集会を開催しあるいは参加して、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、ポルトガル、アメリカの一線級の専門家20名と共同研究の体制が構築できたことは、研究成果をグローバルに展開し、将来的に進化させるという大きな学術的意義がある。さらに、貨幣がデジタル化され、現金が消えつつある現代において、貨幣の本質とも言える「社会的絆」という側面を照射して、「コミュニケーションのある温かい生身の経済関係」を考える機会を提供する社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This project is to figure out the social structures of the monetary system and to reveal the mechanizm of distribution in the western part of Eurasia in the so-called 'Middle Ages'.The money, which sustained the powers and have bee a majour form of wealth as well as the measure of value, could had been a blood, within-and between-regional Worlds', of communication. (1) What was its material? (2)How did it make, (3)How was it accepted? (4)How did it citculate? And (5)how did it end and how was it taken over. Indeed, these questions, that is, the life of money, are difficult to provide the answers, but, albeit slightly, we can find some sort of solution in Britain, the Baltic Sea area and in the Mediterranean Sea regions. To research into the Frankish region still remains an issue.

研究分野：ヨーロッパ中世史(イングランド)

キーワード：貨幣 銭貨 銭貨製造人 銭貨製造場 銀 ユーラシア 中世

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

これまでの日本の西洋史学(西洋経済史学)研究の問題点のひとつとして、前近代時代の貨幣史研究の欠落が指摘されてきた。本格的な研究はもとより、時間と空間に広い視野をもった概説的な研究も十分とはいえない。しかし貨幣は世界史的レベルで検討していかなくてはならない課題である。こうした問題提起を受けて、「西ユーラシア貨幣史研究会」は、2016年から科学研究費(基盤A)の補助を受けて毎年国際シンポジウムやワークショップを開催し世界レベルでの共同研究の道を模索するとともに、科研メンバーによる国際学会での発表といった活発な活動を展開してきた。科学研究最終年度に総括的な報告書を印刷して今後の研究の礎にしたい。

## 2. 研究の目的

本研究は、前近代における西ユーラシアを時空間の対象として、貨幣の製造と流通のシステムの構造と展開を解明することによって新たな前近代世界システム論への道を拓くことを最終目的としている。権力と富は歴史のなかで常に基本的な研究課題であった。その「権力」を支え「富」の主要な形態であると同時に計測の価値尺度であったのが「貨幣」である。しかしピーター・スパフフォードが指摘したように「これまで中世史家が貨幣に対してさほどの注意を払ってこなかったことは驚くべきこと」なのである。それ故「地域世界」の血液ともいべき貨幣が、(1)何を素材として、(2)どのように製造され、(3)受容され、(4)流通しそして(5)その生涯を終えて次に継承されていったかという、「貨幣の生涯」を解明することには意義がある。貨幣は命をもち減価し、その流通は複雑系回路の構造を持つという視点から、前近代の西ユーラシアにおける貨幣の製造と流通のシステムを捉えなおすことが本研究の直接の目的である。

## 3. 研究の方法

まず研究計画の方法と計画の概要をまとめておく。(1)科研期間の4年間で、ここ30年間の前近代ユーラシア西部における古銭学の研究史を整理し、主要な論点を洗い出す。その際、ユーラシア東部の同様の論点を、常に比較史的に検討していく。(2)西ユーラシア流通圏を六つのサブ流通圏にわけ、そこで前近代(1000年間)に使用された銭貨すべてに関するデータベースを作成する。(3)これらをもとに、次の「研究方法」で述べる、分析方法論を土台にして、前近代のユーラシア西部における貨幣の複雑系回路を解明し、公開する。その結論をうけて可能な限り構造的な前近代世界システム論へと向かう仮説を提示したい。

補足的であるが、科研に要求される、当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義について、概ね以下のようにまとめておく。前近代のユーラシア西部における貨幣の製造と流通のシステム、銭貨の寿命という時間軸と権力と地域社会の発給と受容のシステムを、時間の流れを考慮した開放系のシステム=複雑系回路という点から、資料に即して具体的に解明することに特色があり、日本では言うまでもなく世界レベルでの研究でも独創的といえる。その結果は、よりダイナミックな世界システム論を構築していく一助となることに予想される意義が見いだされるであろう。

## 4. 研究成果

4年間に渡って、世界の一線級の専門家と国際シンポジウムやワークショップ、国内でのいくつかの学会でのあるいは協賛でのシンポジウムを開催して、議論を重ね、問題を深化させた意義はあると思う。具体的な活動は下記概要を参照。その内容は、下記の三冊の報告書(三冊目は第三部と第四部の合作)(これは2018年9月の国際シンポジウムが台風の影響で関西国際空港が使用できず、報告者を母国に帰国させるのに経費が予定された予算を超過し、報告書刊行を断念したためである)にまとめた。

4年間で、イギリス、ドイツ、フランス、スペイン、ポルトガル、イタリア、ポルトガル、アメリカ合衆国の20名を超える専門家と共同研究を行い、成果を刊行したことは、知的インフラとして本科学研究会が築いた最良の成果であろう。これを基盤としてさらなる貨幣史研究の深化が期待できる。

2016年4月に熊本県で発生した大地震によって発見された益城町砥川の16,000枚を超える古銭の完全分析を行い、その結果を櫻木晋一・鶴島博和『砥川古銭の調査報告』(2017)という報告書にして益城町教育委員会をはじめ関係機関・関係者に配布し、文化財保護に努めた。

一方で、反省点もある。「前近代(1000年間)に使用された銭貨すべてに関するデータベ

ースを作成」するという当初の目的は、まだ入力途中で進まず、これから継続していかなければならない。従って、現時点では公開できるレベルに達していない。また予定していたスッパフォードの名著の翻訳も原稿は集まっただけで予定していた出版社が廃業したために空中に浮いたままになっている。大部なだけに早急に代替りの出版社を見つけたい。

#### 報告書

鶴島博和編『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開(I): ポスト・ローマ、イングランド、イタリア、ドイツ』熊本、2017年7月1日、369 pp.

櫻木晋一・鶴島博和編『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開(II): 東ユーラシアにおける中世貨幣予稿集』2017年11月3・4日(下関市立大学) 113 pp.

櫻木晋一・鶴島博和『熊本県益城町砥川出土古銭調査報告書』2008年

『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開(III・IV): 熊本、2020年2月7日、349 pp.

論文(国内、国際の研究成果や論文は、上記報告書に集約されているので、そこにまとめ切らなかったものの内で主要なものをあげる)

Manabu Kameya, "From Qustal to Jahbadh: An Aspect of Transition on the Egyptian Tax-Collecting System", *New Frontiers of Arabic Papyrology*, E.J. Brill, Leiden, pp. 141-160, 2017年6月

櫻木晋一「出島和蘭商館跡出土の貨幣について」出島長崎市教育委員会『国指定史跡出島和蘭商館跡銅蔵地他中央部発掘調査報告書』第2分冊(分析・考察編) pp. 86-95(2018.3)

安木新一郎「ウイグル文字使用ジョチ朝銅貨」『京都経済短期大学論集』、25(1)、2017年7月、61頁~64頁。

安木新一郎「ジョチのタムガ」『京都経済短期大学論集』、25(2)、2017年11月、85頁~89頁。

安木新一郎「一兆ドルプラチナ硬貨について」『京都経済短期大学論集』、25(3)、2018年3月、25頁~32頁。

菊池雄太「前近代ユーラシア貨幣史研究会第1回シンポジウム「中世貨幣の世界：銀貨、銭貨製造地、銭貨製造人」内川勇太、菊池雄太、鶴島博和、エイドリアン・ポペスク、ローリー・ネイスミス、ウイリアム・デイ、マックス・デンツェル」『立教大学経済学研究』第71巻第4号(2018年3月) 143-191頁

安木新一郎「ジョチ朝初期貨幣」『京都経済短期大学論集』、25(1)、2017年7月、65頁~68頁。

安木新一郎「大元通宝鉛銭」『京都経済短期大学論集』、25(3)、2018年3月、33頁~35頁。

#### 研究活動概要

##### 2016年度

- ・2016年5月23日：第1回活動報告会(基調報告)
- ・2016年7月21日~24日：オックスフォード大学において Conquest Conference で鶴島報告。
- ・2016年7月26日：ケンブリッジ大学フィッツウィリアム博物館で Dr Adrian Popescu, Dr William Day と今後の研究打ち合わせ。
- ・2016年9月9日：ライプツヒ大学で Markus Denzel 教授主催のミニシンポジウムで、鶴島、名城報告。
- ・2016年9月17日~19日：第2回活動報告会(京都女子大学)
- ・2016年10月24日：うるま市与那城歴史民俗博物館で勝連城出土のローマ銅貨の見学調査。
- ・2016年12月11日：第3回活動報告会(九州大学)
- ・2017年3月18日：第1回国際シンポジウム：The International Symposium on Money and Its Circulation in the Pre-Modern Western Eurasian World part (I), Post-Rome, England, Italian Peninsula and Germany.
- ・2017年3月19日：第1回国際ワークショップ(立教大学)
- ・2017年3月21日：元興寺ワークショップ
- ・2017年3月24日：第2回国際ワークショップ(熊本大学)

## 2017 年度

- ・2017 年 5 月 21 日：第 67 回日本西洋史学会大会自由論題報告 (Werner Scheltjens) (一橋大学)
- ・2017 年 5 月 22 日：第 4 回活動報告会 (立教大学)
- ・2017 年 5 月 24 日：第 3 回国際ワークショップ (Werner Scheltjens) 「North-Eurasian Markets and Fairs from the late Middle Ages to early Industrialization」 (熊本大学)
- ・2017 年 8 月 22 日：社会経済史学会近畿部会共催シンポジウム「前近代における貨幣製造の技術的射程」 (大阪市立大学)
- ・2017 年 11 月 3 日～4 日：第 2 回国際シンポジウム「東ユーラシアにおける中世貨幣」 (下関市立大学)
- ・2017 年 11 月 6 日：第 4 回国際ワークショップ (William R. Day, Jr) (熊本大学)
- ・2018 年 3 月 3 日：第 5 回活動報告会 (熊本大学)
- ・2017 年 8 月 9 日～12 日、9 月 10 日～12 日、10 月 13 日、10 月 19 日、12 月 11 日、2018 年 1 月 12 日～13 日、1 月 31 日、3 月 3 日：熊本県益城町埋蔵貨調査
- ・2017 年：沖縄県うるま市勝連城個別発見貨調査

## 2018 年度

- ・2018 年 5 月 20 日：第 68 回日本西洋史学会大会自由論題報告 (David Roffe) (広島大学) 「Domesday Moneyers」
- ・2018 年 6 月 5 日、7 月 5 日、7 月 21 日：熊本県益城町埋蔵貨調査
- ・2018 年 9 月 4 日：第 6 回国際ワークショップ (Monetary World in the Medieval Mediterranean(I)) (熊本大学)
- ・2018 年 9 月 6～7 日：第 3 回国際シンポジウム Monetary World in the Medieval Mediterranean(II) (同志社大学)
- ・2019 年 3 月 28 日：第 6 回活動報告会 (西洋史学会の事前検討会) (お茶の水女子大学)
- ・2019 年 3 月 29 日：第 5 回国際ワークショップ (ドイツ Greifswald 大学教授 Michael North) (立教大学) と鶴島博和、徳橋曜、菊池雄太、成川岳大との研究打ち合わせと今後の共同研究について

## 2019 年度

- ・2019 年 5 月 19 日：第 69 回日本西洋史学会大会小シンポジウム (静岡大学) 「中世におけるデナリウス銀貨の世界」
- ・2019 年 5 月 19 日：第 7 回活動報告会 (静岡大学)
- ・2019 年 7 月 4 日：リーズ国際中世学会セッション (イギリス・リーズ大学)  
Session 1552 The Monetary System and Currency in Eurasia in the Pre-Modern Era, I: Authority and Coinage in the Medieval Mediterranean Region, 関師宣忠、阿部俊大、西村道也、亀谷学  
Session 1652 The Monetary System and Currency in Eurasia in the Pre-Modern Era, II: Money and Its Circulation in the British Isles and Scandinavia. 内川勇太、梁川洋子、西岡健司、成川岳大
- ・2019 年 7 月 8 日 14 時～16 時 ソルボンヌ大学で Marc Bompaire 教授、Dr Guillaume Sarah, Dr Thibault Cardon、鶴島博和、関師宣忠による研究打ち合わせと今後の共同研究について
- ・2019 年 9 月 2 日：科研費基盤研究 (A) 「前近代海域ヨーロッパ史の構築：河川・島嶼・海域ネットワークと政治権力の生成と展開」 (課題番号 19H00546) 共催公開講座 (Rory Naismith) (立教大学)
- ・2019 年 9 月 3～4 日：第 4 回国際シンポジウム  
The International Symposium on Money and Its Circulation in the Pre-Modern Western Eurasian World part III: Britain, the Baltic Sea, The Italian Peninsula, the Islamic World and Beyond (立教大学)
- ・2020 年 1 月 20 日～23 日：沖縄県うるま市勝連城個別発見貨調査 (Adrian Popescu)
- ・2020 年 3 月 23 日 第 8 回活動報告会 (総括)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松園菜穂、比佐陽一郎、鶴島博和	4. 巻 37
2. 論文標題 中世イングランドにおけるペニー銀貨の材質調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡市埋蔵文化財センター年報	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安木 新一郎	4. 巻 26 (2)
2. 論文標題 「イスラーム貨幣に打刻されたモンゴル帝号について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安木 新一郎	4. 巻 26 (1)
2. 論文標題 穿孔されたハナピラダカラ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安木 新一郎	4. 巻 26 (3)
2. 論文標題 「中央アジア・ブハラで作られた漢字の刻印されたディルハム銅貨	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安木 新一郎	4. 巻 26 (2)
2. 論文標題 書評：川戸貴史『中近世日本の貨幣流通秩序』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安木 新一郎	4. 巻 26 (3)
2. 論文標題 書評：高木久史『近世の開幕と貨幣統合：三貨制度への道程』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 図師宣忠	4. 巻 33
2. 論文標題 (研究大会報告概要) カタリ派 へのアプローチ 異端審問記録と中世南フランス社会 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日仏歴史学会会報	6. 最初と最後の頁 30-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池雄太	4. 巻 72-4
2. 論文標題 貨幣史の中のハンザと北海・バルト海交易 - 現段階の研究水準に基づく試論 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部俊大	4. 巻 202
2. 論文標題 [翻訳]カロリーナ・ドメネク＝ベルダ「9世紀の西地中海：古銭学のデータから」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文學	6. 最初と最後の頁 152-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部俊大	4. 巻 68
2. 論文標題 [翻訳]アントニ・アルバセーテ＝イ＝ガスコン「遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち(下)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化學年報	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisashi Hayakawa, F. Richard Stephenson, Yuta Uchikawa, Yusuke Ebihara, Christopher J. Scott, Matthew N. Wild, Julia Wilkinson, and David M. Willis	4. 巻 294:42
2. 論文標題 The Celestial Sign in the Anglo-Saxon Chronicle in the 770s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Solar Physics	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11207-019-1424-8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻木晋一・鶴島博和	4. 巻 1
2. 論文標題 砥川古銭の調査報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 砥川古銭の調査報告	6. 最初と最後の頁 1-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻木晋一	4. 巻 1
2. 論文標題 出島和蘭商館跡 江戸町側出土銭について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 出島長崎市教育委員会『出島和蘭商館跡出島表門橋架橋に伴う発掘調査報告書』	6. 最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田雅彦	4. 巻 76
2. 論文標題 中世初期コルビー修道院 (北フランス) の貨幣 構築された貨幣史のもつれ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 117 - 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田雅彦	4. 巻 127-11
2. 論文標題 書評「川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 74 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) DOI <a href="https://doi.org/10.24471/shigaku.127.11">https://doi.org/10.24471/shigaku.127.11</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名城邦夫	4. 巻 155 - 2
2. 論文標題 ヨーロッパ古代中世貨幣史ーカール大帝の貨幣改革までー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 (社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 97 - 130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村道也	4. 巻 20
2. 論文標題 ビザンツ貨をめぐる模造と模倣：帝国の貨幣史をてがかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヨーロッパ文化史研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村道也	4. 巻 1
2. 論文標題 ビザンツ帝国の貨幣と博物館における展示：2016-2018年の海外調査より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 亀長洋子（編）『中近世地中海史の発展的研究：グローバルな時代環境での広域的交流と全体構造』	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manabu Kameya,	4. 巻 1
2. 論文標題 From Qustal to Jahbadh: An Aspect of Transition on the Egyptian Tax-Collecting System	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 New Frontiers of Arabic Papyrology, E.J. Brill, Leiden	6. 最初と最後の頁 141-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 櫻木晋一	4. 巻 1
2. 論文標題 出島和蘭商館跡出土の貨幣について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 出島長崎市教育委員会『国指定史跡出島和蘭商館跡銅蔵地他中央部発掘調査報告書』第2分冊（分析・考察編）	6. 最初と最後の頁 86-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内川勇太、菊池雄太、鶴島博和、エイドリアン・ポベスク、ローリー・ネイスミス、ウィリアム・デイ、マックス・デンツェル	4. 巻 71
2. 論文標題 中世貨幣の世界：銀貨、銭貨製造地、銭貨製造人	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立教大学経済学研究	6. 最初と最後の頁 143-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirokazu Tsurushima	4. 巻 3
2. 論文標題 Why Could the Silver Pennies Circulate as Currency England c. 973-c.1135?: Kingship, Silver, and Moneyers	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annales Mercaturae	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安木新一郎	4. 巻 25
2. 論文標題 ウイグル文字使用ジョチ朝銅貨	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 京都経済短期大学論集	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部俊大	4. 巻 699
2. 論文標題 レコンキスタと中世スペインの政治構造	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻木晋一	4. 巻 1
2. 論文標題 「所見」九州で鑄造された錢貨について 『コタン浜出土銭』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 淑徳大学人文学部歴史学科調査研究報告	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nobutada Zushi	4. 巻 294
2. 論文標題 A propos de l'utilisation des registres d'inquisition de Toulouse au XIIIe siècle	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Annales du Midi: revue de la France mridionale	6. 最初と最後の頁 269-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 名城邦夫	4. 巻 53-4
2. 論文標題 西ユーラシア貨幣史 - 国家と計算貨幣の歴史 - 1	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 (社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徳橋曜	4. 巻 701
2. 論文標題 史料紹介 住民の福利と健康のために 中世イタリア都市の生活環境をめぐる史料	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 松園菜穂、比佐陽一郎、鶴島博和
2. 発表標題 中世イングランドにおけるペニー銀貨の材質調査
3. 学会等名 文化財科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田雅彦
2. 発表標題 2世紀以前の西欧中世諸権力と市場 市場は国王大権に属していたのだろうか
3. 学会等名 市場史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 近世ハンプルクの商業拡大と市場の制度・秩序 - エルベ川下流地域における都市間競合と外来商人誘致との関連
3. 学会等名 市場史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirokazu Tsurushima
2. 発表標題 Two or Three Englands?
3. 学会等名 Medieval Zomias Workshops (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 David Rofffe
2. 発表標題 Domesday Moneyers
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部俊大
2. 発表標題 13世紀におけるキリスト教的世界観 教皇庁とムワッヒド朝の関係を中心に
3. 学会等名 同志社大学文化学会懇話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀谷学
2. 発表標題 江戸後期貨幣図録の中のイスラーム貨幣
3. 学会等名 日本中東学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Manabu Kameya
2. 発表標題 Use of Silver Coins in the First Centuries of Islamic Egypt: An Analysis based on Arabic Papyrus Documents
3. 学会等名 World Congress of Middle Eastern Studies 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田雅彦
2. 発表標題 11-12世紀北フランスの貨幣と地域秩序 コルビー修道院の造幣活動を中心に
3. 学会等名 大阪大学グローバルヒストリー・セミナー研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名城邦夫
2. 発表標題 ヨーロッパ中世貨幣史 南ヨーロッパの視点から
3. 学会等名 日本ハンザ史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Manabu Kameya
2. 発表標題 Eastern Fars in the Early Islamic Period: Analysis from Numismatic Evidence
3. 学会等名 Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Manabu Kameya
2. 発表標題 (Fasi Numerals and Use of Money in the Vellum Documents), in al-Maghrib wa al-Yaban: Ru'ya tarikhia mutaqaati'a
3. 学会等名 (Morocco and Japan: perspectives on the history of the two countries) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ウェルナー・シエルチェンツ
2. 発表標題 North-Eurasian Markets and Fairs from the Middle Ages
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴島博和
2. 発表標題 11世紀イングランドにおける塩の生産と流通
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirokazu Tsurushima
2. 発表標題 The Legend of 'Moving Forest and Unconquered Kent
3. 学会等名 Conquest Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部俊大
2. 発表標題 13世紀前半のローマ教皇庁のイベリア半島諸国に対する政策
3. 学会等名 九州史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本義之・櫻木晋一
2. 発表標題 ディープラーニングによる画像認識を用いた出土銭貨の分類に関する考察
3. 学会等名 第29回バイオメディカル・ファジィ・システム学会年次大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 函師宣忠
2. 発表標題 「異端審問官 = 托鉢修道士による情報伝達 審問記録の作成・利用・管理をめぐって」
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池雄太
2. 発表標題 近世ハンプルクの中継貿易における商人の営み 制約下の商業展開 3
3. 学会等名 中四国歴史学地理学協会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 函師宣忠、阿部俊大、西村道也、亀谷学
2. 発表標題 The Monetary System and Currency in Eurasia in the Pre-Modern Era, I: Authority and Coinage in the Medieval Mediterranean Region
3. 学会等名 Leeds Medieval Congress（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内川勇太、梁川洋子、西岡健司、成川岳大
2. 発表標題 The Monetary System and Currency in Eurasia in the Pre-Modern Era, II: Money and Its Circulation in the British Isles and Scandinavia
3. 学会等名 Leeds Medieval Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田雅彦、鶴島博和、城戸照子、徳橋曜
2. 発表標題 ディナリウス銀貨の世界
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 David Roffe
2. 発表標題 Domesday Moneyer
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 鶴島博和 (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 熊本大学	5. 総ページ数 349
3. 書名 前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開 (III・IV)	

1. 著者名 鶴島博和編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 熊本大学	5. 総ページ数 369
3. 書名 『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開( ) : ポスト・ローマ、イングランド、イタリア、ドイツ』	

1. 著者名 櫻木晋一・鶴島博和編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 熊本大学	5. 総ページ数 113
3. 書名 『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開(II) : 東ユーラシアにおける中世貨幣予稿集』	

1. 著者名 櫻木晋一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ニューサイエンス社	5. 総ページ数 175
3. 書名 貨幣考古学の世界	

1. 著者名 阿部俊大	4. 発行年 2016年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 325
3. 書名 レコンキスタと国家形成 アラゴン連合王国における王権と教会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	櫻木 晋一  (Sakuraki Shinichi)  (00259681)	朝日大学・経営学部・教授    (33703)	
研究分担者	亀谷 学  (Kameya Manabu)  (00586159)	弘前大学・人文社会科学部・講師    (11101)	
研究分担者	菊池 雄太  (Kikuchi Yuta)  (00735566)	立教大学・経済学部・准教授    (32686)	
研究分担者	城戸 照子  (Kido Teruko)  (10212169)	大分大学・経済学部・教授    (17501)	
研究分担者	西村 道也  (Nishimura Michiya)  (10599814)	福岡大学・経済学部・講師    (37111)	
研究分担者	新井 由紀夫  (Arai Yukio)  (30193056)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授    (12611)	
研究分担者	徳橋 曜  (Tokuhashi Yo)  (30242473)	富山大学・人間発達科学部・教授    (13201)	
研究分担者	安木 新一郎  (Yasuki Shinichirou)  (40586012)	函館大学・商学部・准教授    (30104)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	図師 宣忠  (Zusi Nobutada)  (60515352)	近畿大学・文芸学部・准教授    (34419)	
研究分担者	阿部 俊大  (Abe Toshihiro)  (60635788)	同志社大学・文学部・准教授    (34310)	
研究分担者	西岡 健司  (Nishioka Kenji)  (70580439)	大手前大学・総合文化学部・准教授    (34503)	
研究分担者	名城 邦夫  (Nashiro Kunio)  (90097684)	名古屋学院大学・経済学部・名誉教授    (33912)	
研究分担者	山田 雅彦  (Yamada Masahiko)  (90202382)	京都女子大学・文学部・教授    (34305)	
研究分担者	向井 伸哉  (Mukai Shinya)  (10828073)	大阪市立大学・大学院文学研究科・講師    (24402)	
研究協力者	ポペスク アドリアン  (Popescu Adrian)	ケンブリッジ大学・Keeper	
研究協力者	デイ ウィリアム  (Day William)	ケンブリッジ大学・Researcher	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	デンツル マルクス (Denzel Markus)	ライプツィヒ大学・Professor	
研究協力者	シエルチェンツ ヴェルナー (Scheltjens Werner)	ライプツィヒ大学・Lecturer	
研究協力者	カント アルベルト (Canto Alberto)	マドリッド自治大学・Professor	
研究協力者	エスクデロ ファティマ (Escudero Fatima)	コンブルテンセ大学・Professor	
研究協力者	ドメネック・ベルダ カロリーナ (Domenech-Belda Carolina)	アリカンテ大学・Professor	
研究協力者	ネイスミス ローリー (Naismith Rory)	ケンブリッジ大学・Lecturer	
研究協力者	シュルツ ワレン (Schultz Warren C.)	デポール大学・Professor	
研究協力者	カルバジャル・デ・ラ・ベガ デイ ヴィッド (Carvajal de la Vega David)	バジャドリド大学・Lecturer	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	エストラーダ・ルイス アルベルト (Estrada-Rius Albert)	パロセロナ国立歴史博物館・Curator	
研究協力者	スクリーン エリーナ (Screen Elina)	オックスフォード大学・Lecturer	
研究協力者	ヤンコヴィアック (Jankowiak Marek)	オックスフォード大学・Lecturer	
研究協力者	バルダッサリ モニカ (Baldassarri Monica)	ピサ大学	
研究協力者	サコッチ アンドレア (Saccocci Andrea)	ウディネ大学・Professor	
研究協力者	ロフ デイビッド (Roffe David)	オックスフォード大学	
研究協力者	ノルト ミカエル (North Michael)	グレイフスワルド大学	
研究協力者	ボンペーユ マーク (Bompaire Marc)	ソルボンヌ大学・Professor	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ギヨーム サラ  (Guillaume Sarah)		
研究協力者	カードン ティバール  (Cardon Thibault)		
研究協力者	ミランダ フラヴィオ  (Miranda Flavio)	ボルト大学・Researcher	